

楊枝は、阪神の良し悪しを知り尽くしている。

この本には、その内容が盛りだくさん綴られています。

—— 桧山進次郎



## はじめに

「はじめに」からちゃんど読んでもらってありがとうございます。

こうやって本を書かせていただいて何ですが、僕はいたって普通の人間です。難しい表現もしませんし、芸術的な描写もしません。たまたま文章を書いて読者のみなさんに読んでもらう仕事に縁があつたので、せっかくのチャンスですから読みやすい文章を書くことを心がけました。これはデイリースポーツに勤務していた時代から同じことです。

もともと、国語は苦手でした。どちらかと言えば、英語のほうが得意です。大学卒

業前の2年間、ほとんど海外にいたこともあり、デイリースポーツ入社直後は、支離滅裂な原稿を書いてはデスクによく怒られました。

「お前の原稿はなあ、むちゃくちゃ日本語がうまい外国人みたいな原稿なんだよ！」これを言われたときは我ながら「なるほど。うまいこと言うな」と反省したものです。

そんな僕なので、背伸びしても仕方ありません。普通に自分の感覚で、わかりやすい文章を目指して執筆したつもりです。

とはいえ、こんな僕にも目標がありました。

大学時代のことです。当時、NHKの「サンデースポーツ」のキャスターとしてスポーツライターの山際淳司さん（故人）が活躍されていたのを覚えているでしょうか？

眼鏡が知的でよく似合って、胸にワッペンのついた紺色のブレザーがカッコ良かったです。1979年の広島対近鉄の日本シリーズを描いた「江夏の21球」

という作品で注目を浴びた方です。9回無死満塁の大ピンチを無失点に切り抜け、広島を日本一に導く江夏豊さんの投球にスポットを当て、徹底的に分析し原稿をまとめていました。その山際さんのようになりたいと、学生時代から思っていました。

冷静かつ的確な視点で取材対象に迫るスタイルに憧れて、その当時に購入できる書籍のほとんどを買って読んでしまいました。海外のスポーツへの造詣ぞうけいも深く、僕自身も作品に描かれた世界に導かれるように、長期にわたって米国に滞在しスポーツ観戦に明け暮れる生活を送りました。

米国では1996年のアトランタ五輪やMLB、NBA、NHL、NFLの4大プロスポーツを、体力と財力の許す限り、生で目に焼き付けてきました。

感想を日記帳にまとめ、自分がプロのスポーツライターになることができたならこんな質問をしようなどと、へたくそな文章で綴ったものです。

あれだけたくさんのスポーツの現場を体感して思ったこと。それは、「まったく飽きないな」ということでした。そして「スポーツを観る仕事なら一生の仕事にできるに違いない」と思い込んだわけです。

1995年に山際さんは46歳の若さで急逝しました。こんなことを言えば、鼻で笑われたと思いますが「僕が、その代わりになるんだ」と信じていました。

さらに、就職活動をしてみると、デイリースポーツに採用してもらえらることになりました。入社してみると、多種多様な新聞社の仕事の中でプロ野球担当記者を任命される幸運にも恵まれました。「念ずれば夢に近づくんだ」と希望に満ちた社会人スタートだったと思います。

ところが、です。

取材はおろか、原稿なんてまったく書くことができせん。まさにプロの壁です。テレビで観てきた野球選手たちに慣れることすら困難でした。

初めての仕事は巨人担当です。まず、東京ドームの行き方すら知りませんでした。

「行って来い」と言われるので取材を試みますが、当時の清原和博さんには、「おととい来いや」と言われるし、1歳年下である松井秀喜さんですら、貫禄かんろくありすぎやし……。

優しそうな川相昌弘さんには、試合前のバント練習後に、

「なんでそんなにバントうまいんですか？」

と、今思えばあり得ない質問をしちゃってます。記者になって初の質問です。

これに対して川相さんは、

「100%成功って、あり得ないだろ。だから、それに近づけるために練習するんだ」

と答えてくれました。なんて、いい人なんでしょう。でも、その試合で川相さんがバント失敗してしまって、そこから1カ月ほどは、怖くて質問に行けなくなってしまうたなんてこともありましたけどね。

そこから何があつたんでしょうね。今では、ふてぶてしい記者です。デイリースポーツを退社して、フリーランスとして東京スポーツで「ワツシヨイ!! スポーツ見聞録」という不定期コラムを担当させていただいています。

これも本当に不思議なご縁です。1998年、デイリースポーツの駆け出し記者としてガムシヤラに仕事をしていた時代、同じ現場で仕事していた東京スポーツの先

輩が、現在ではデスクとなり、僕を拾ってくれました。

「何を取っても、人だな」

と思います。

人とのつながりというのは、当たり前ですが、とても大切なものです。会社という組織を離れて、改めて思います。

結果的に僕はフリーのスポーツライターにはなっている形ですが、山際さんになるのなんて絶対に無理です。あきらめました。あんなにシュツとスマートではありませんね。

ただ、人に対して深く深く掘り下げていく取材スタイルは、ずっと真似していきたいと思います。

本人にお会いしたことはないですが、知っているんです。デイリー記者時代、江夏さんのコラムをサポートさせてもらったとき、江夏さんに質問しました。「山際さんはどんな人でしたか」と。

「山際さんは聡明そうめいな人だった。俺と同一年なんだ。早く亡いくなってな。取材はしつこかったぞ。納得するまで聞いてくる」

その頃、本当に不思議なご縁で山際さんの奥様の姪めいっ子さんにも出会いました。さらに、その息子さんは、楊枝秀基という記者を知ってくれていて、将来はスポーツ紙の番記者になりたいと話してくれました。

人との縁、つながりを大切に――。

本書では、阪神の選手、OBの方々との交流の中から、記憶の一部を活字に表現してみました。よろしかったら、最後までお付き合いください。



# 笑い と 涙 の タイガー ス愛

記者にも容赦ないヤジを飛ばす虎党

センス抜群のヤジで相手選手も思わず苦笑い

開幕前からマジック点灯!?

虎党みんながオーナー気分

ブレない「デイリー」W杯でも一面は阪神!

電車の中がテーマパーク!? オツサン率が高い阪神電車

人気者はつらいよ ストーカーにご用心

40 36 33 30 27 24 20

## 泣ける！ 虎戦士の素顔

礼儀正しい体育会系人間 鳥谷敬

仲間思いのクールなリーダー

新代打の神様は気さくな頑固者

四つ葉のクローバーを探す、心優しき安藤優也

球界ナンバーワンのダンディー選手

男気あふれる虎戦士

虎史上最高のリードオフマンの素顔

野球を通じて社会奉仕活動に尽力する男

何も知らなかった赤星引退の顛末

## 今も昔もタイガース伝説

03年リーグVの立役者は、謙虚で律義者

気配り上手のジェフ・ウィリアムス

神様・仏様・バース様

常人にはついていけないファンタジスタ・岡田彰布

引退パーティーで見せた真弓明信の心意気

ミリ単位で芝生の長さを見抜く眼力！

世紀の誤報!? 桧山引退報道の裏側

ファンキー過ぎる川藤幸三伝説！

131 124 119 115 108 102 96 92

## だから、大好きタイガース

「さ」と「ち」の区別がつかない？

顔しか取り柄がないなんて言わせない！

憧れの選手にして人格者、世界の福本

濱中の復活に号泣 デイリー記者も熱い

赤星杯ゴルフで番記者とコミュニケーション

遅咲きの大輪を咲かせた能見篤史

藤川球児から教えられた仕事に対する姿勢

稀代のスラッガー今岡誠の愛

173 167 161 157 153 148 142 138

虎党おススメの店——楊枝秀基・厳選5店

- あのスカウト行きつけの中華料理店——富貴楼 180  
マナーある阪神ファンが集う店——ま虎つちゃん 183  
ハナ肇似の中継ぎ右腕の店——とり焼き さじ 186  
こだわりぶりは、店でも健在——酒美鶏 葛城 189  
現役選手もお忍びで来るレストラン——42 192

カバーフォーマット◎ panix (Keiichi Saito)  
カバーデザイン◎河南祐介 (FANTAGRAPH)  
本文デザイン◎二神さやか  
本文イラスト◎ペン獣☆やぎま優作  
編集協力◎久野 隆 (ファミリーマガジン)  
DTP◎株式会社キャップス  
Special thanks ◎奥村景二

第 1 章

笑いと涙の  
タイガース愛



## 記者にも容赦ない ヤジを飛ばす虎党

「デイリースポーツ」が虎党のバイブルであるとするれば、「トラ番記者」はバイブルのライター（!?）ということ、コアな虎党のみなさんは、どの記者がどの選手のネタに強い、どういった原稿スタイル、取材スタイル、見た目の特徴など、さまざまな情報に精通しています。

一面や三面のメイン原稿を中心に、スポーツ紙の長めの原稿の最後には署名が付き  
ます。もちろん、僕もデイリー虎番時代は多くの署名原稿を書かせてもらいました。

「楊枝秀基」

この字面を見ると非常に読みにくいのですが、爪楊枝の「ようじ」なので、覚えて



しまうと覚えやすいらしく、たくさんの虎党の方々に声をかけていただきました。新聞上でのことなので、外見はバレていないはずなのですが、顔と名前が一致してしまふというのはうれしい半分、恐ろしい限りです。

2006年から数年間は、サンテレビの「熱血！タイガース党」という番組の「ウィークリー・タイガース」というコーナーに出演させてもらったことも後押ししたのでしよう。映像で姿形を確認できてしまふわけですから、当時は甲子園の周辺で声をかけていただく機会が激増しました。しかし、サンテレビは神戸のテレビ局。

東京ではそんなことないだろうと油断していると、東京でも同じように声をかけていただく機会が多くなり、ファンの方に逆取材したこともあります。

「関東出身の方ですよね？　なんで、僕の顔と名前が一致しちゃうんですか？」

「ああ、あのサンテレビの番組は何日か遅れですけど、BSのスカイ・Aでも放送されてますからね。いつも観てますよ」

「な、なんやて……。そういうことか。恐ろしいな」

と僕はちよつとゾクツツとしてしまいました。

特に**神宮球場ではファンの方々と接する機会が多い**ので、注意が必要です。首から取材証をぶら下げているので、会社名も書いてあって、そのため、喫煙室に行く途中でよく声をかけられました。

「この前の赤星の原稿、良かったですよ」などの声はうれしいのですが、「なんで若手のキャッチャーが育たないのか、オーナーに聞いてくださいよ」というのは正直、返答に困りました。

あと、恥ずかしいのは、神宮球場での試合後です。三塁側スタンド横のファウルグ

ラウンドを取材して歩いて行くわけですが、スタンドからの声って、ものすごく聞こえちゃうんです。行きしなは選手を取材しているので集中していますし、ファンの方々も選手へのエールや罵声ばせいに神経を向けているのでいいのですが……。問題は取材を終えたあと、クラブハウスからの帰り道です。

「オーイ、楊枝記者あゝ」などというふざけたコールが目白押し。読者のみなさんを無視するのも失礼なので、手を振って応えたりもするのですが、悪質なみなさんも存在します。調子に乗ってこちらが手を振っていると、

「こらゝ、楊枝ゝ、調子乗んなよゝ」

と、笑いのネタにされてしまうことも数々で……。

虎党恐るべしです。

**タイガース名言録** 阪神での野球は希望があって楽しかったよ。巨人では誰もプレーを楽しんでいなかった。——ジョージ・アリアス

(退団会見より)



## センス抜群のヤジで 相手選手も思わず苦笑い

阪神ファンのヤジはセンス抜群だと思います。聞いていて吹き出しそうになることもあります。

中には聞くに耐えない罵詈雑言ばりぞうごんをまき散らす方々もいますが、そこは置いておくとして、**印象に残ったヤジ**の例を挙げてみましょう。

特に永遠のライバル巨人との試合前には来場者も多いとあって、いろんなヤジが飛び交います。

巨人在籍中の上原いわく、

「僕は甲子園大好きですよ。試合前練習で外野のポール間を走るのが楽しみですもん。」



ヤジがおもしろいから。僕にも『いら！ 歯ぐき』とかそういう言葉も飛んできますけど、どつちかと言ったら『FAになったら阪神来いよ〜』とか、温かい言葉も多いですしね」

といった具合。

同じように、主力捕手の阿部にも手の込んだヤジが飛んでいたのが印象に残っています。

前出の上原と同じように外野のフェンス沿いをランニングしていた阿部に向かって、ライトスタンドの阪神ファンがなぜか何度も「あべ〜」と熱烈なコール。

あまりのしつこさに、阿部がついに振り

向くと、

「あつ、原監督う〜！ 阿部が練習中やのに、よそ見してまっせえ〜」

と大声でチクリ口撃。

これには阿部も「そうきましたか……」という表情で苦笑いするしかなかったのも、微笑ましい光景でした。



## タイガース名言録

ベンチがアホやから、野球がでけへん！——江本孟紀

(当時のマスコミ報道より)



## 開幕前から マジック点灯!?

2014年も開幕まであと2日と迫った3月26日に尼崎市の尼崎中央三丁目商店街では、「日本一早いマジック点灯式」が行なわれました。

2014年で12回目となった毎年恒例のこの行事には熱烈な阪神ファンとともに、買い物客らを加えた約1000人が参加。兵庫県明石市出身で阪神OBの藤本敦士氏もゲストとして登場という手の込みっぷりでした。

名誉応援団長のプロレスラー空牙さんが登場しマジックナンバー「144」のボードが掲げられると、オーディエンスから「おおっ」の歓声が上がリ、大盛り上がりでした。



さらには、「六甲おろし」の大合唱からの、ジェット風船飛ばしと、イベントは終始ハイテンション。OBの藤本氏の「まさか」の2位予想に一瞬、観衆がどよめく場面もありましたが、「これを発奮材料に」と粹なコメント。和やかな雰囲気のまま、イベントは滞りなく行なわれました。

これも、関西独特の「阪神タイガース文化」のなせる業でしょ。

そんなもん、開幕した瞬間から「マジック144」とか、どないなつとんねん！早過ぎるわ!!!

チームが調子悪いシーズンなんて、5月くらいになったら、知らんまにフェードア

ウトしてるときもあるくらいやし……。。

そんなことはもちろん、ファンのみなさんもわかっていて、コメントもさまざま。

「それはマジックやないやろ〜」

「よっしゃ！ 今年優勝や！」

「えッ？ マジックー44？ アホみたいな話やけど、僕はこういうノリが好きなんです」

こんな声を聞くにつけ、地元に愛される球団、阪神タイガースって幸せもんやなと思っ次第です。

 **タイガース名言録**  
ない。——金本知憲

甲子園の5万人のため息を聞いたら、簡単には凡退でき

(出典不明)



## 虎党みんながオーナー気分

シーズン中もオフも虎党はみんな、タイガースのオーナー気分でナインの戦いを見守って（!?）います。

大学、社会人までプレーした高度な野球経験者から、ボールなんて握ったこともない人まで、したり顔で、

「**阪神はもっと若手使って、育てながら強くしていかなあかんねん**」  
などとのたまってしまっっちゃってます。

勝っているときには、上から目線でお褒めの言葉が大多数を占めるわけですが、負けがこんだときなんていうのは、読んでられない辛辣しんらつなコメントも……。

以前、勤務していたデイリースポーツには**携帯サイト「阪神Vデイリー」**があるの



ですが、過去には「私がオーナー」というコーナーも設置されておりました。

まあ、言いたい放題のコメントのオンパレードでしたが、このサイトは選手たちもよく見ているわけで……。

僕がトラ番をやっていた時代には、某レギュラー選手から真剣な顔で苦情が届いたこともありました。

「あれはあかんでしょ。いい意見ももちろんあるんですけど、会社の人がちやんとコメントをチェックして掲載するものと掲載しないものを選ばないと。読んでるこっちは本気でムカつくことだってあるんですよ。あのコーナーはやめるべきだと思います」

そんなこんながあつてですかねえ……。現在でもデイリースポーツの携帯サイト「阪神Vデイリー」は健在なのですが、**あのコーナーは存在しない**わけです。

どうなんでしょうね。デイリースポーツさん？

携帯サイトの記事をきっかけに、トラ番記者と選手の会話が始まることもありますから、ぜひ復活を考えてください。



## タイガース名言録

ながえ。——岡田彰布

350万人というファンの皆様にみももまめましたがい

(シーズン終了後のファン感謝デーでのスピーチより)



# ブレない「デイリー」 W杯でも一面は阪神!

阪神ファンのみなさんのバイブルといえは？

こんな問いにどれくらいの方々が即答してくれるでしょう。

たぶん、「虎党のバイブル言うたら、そんなもん『デイリースポーツ』やんか」。そういう声が聞こえてくるものだと信じています。

関西在住の方々からしてみれば、1年間を通してほとんどのスポーツ紙が一面を阪神タイガースで作っている印象が強いはず。

ところが、エンターテイメント、娯楽の選択肢が非常に多い関東エリアの読者の方々ははどうでしょう？



サッカーワールドカップの話題しかり、有名芸能人のゴシップしかり、ネタはそこら中に存在しています。阪神が毎日一面だなんてことはありえない現象と言っているでしょう。

それが証拠に、2014年サッカー・ブラジルW杯で日本が予選リーグ敗退となった日の新聞を確かめてみてください。関東のスポーツ6紙のうち5紙はW杯で作っていたはず。

しかし、デイリーは違いますよ。しつかり「良太、抹消」というネタで一面を作っていたではないですか！

これぞ、「ブレないデイリー」。

「意味不明な独自路線！」なんてことを言う人も多いでしょうが、甘んじて批判を浴びましょう。

しかし、全国には阪神ネタを楽しみに朝を待っている方々も存在するのですよ。これでもいいんです。バカボンのパパも「これでいいのだ！」と即答してくれるはずですよ。まあ、関東エリアの方々が関西エリアに出張にでも来たときに、スポーツ紙を全紙買ってみていただいたらわかると思うんですよ。

「**阪神は文化**」であり、「**デイリーは虎党のバイブル**」であることを再確認できるはずですよ。



### タイガース名言録

チームが勝つために必要なことだと思ったら、遠慮なんかしませんよ。——城島健司

(プロ野球選手語録集<http://bit.ly/Pt2sgf>)



## 電車の中がテーマパーク!? オツサン率が高い阪神電車

女優の中谷美紀さん主演の「阪急電車」という映画は有名になりましたが、阪神電車ってどうなんでしょう。

タイガースの親会社であることはもちろん、周知の事実。特に神戸〜大阪間に在住のみなさんにとっては日常の足と言っていいでしょう。

阪神電車は駅と駅の間隔が非常に短く、バス停ばりに駅を置いていきます。そういう意味で地域に密着した会社だなという感覚は、僕にはあります。ただ、何て表現すればいいのでしょうか、イメージですよ。

関西に住んでみないとわからないかもしれませんが、説明の必要はあるってもので



しよう。

神戸から大阪にかけては鉄道会社が北から順番に阪急、JR、阪神と各鉄道会社が東西に並走しています。それでもって、それぞれに特色があります。特に阪急電車は神戸松蔭や甲南女子、神戸女学院、関西学院のような良家のお子様たちが通う学校が沿線に存在し、ハイソなイメージがあります。

しかしどうでしょう。もちろん筆者も乗ってますし、大好きな電車なのですが、阪神電車のオッサン率は他社に比べ群を抜いています。

元町駅にJRAの場外馬券売り場がある

ということも手伝い、スポーツ紙を持った人々も多い印象です。オネエちゃんとなる  
と、**鳴尾駅で降り降りする武庫川女子大の学生**くらいしかいな～いな、感覚です。

さらに、**甲子園で試合があるときの夕方の阪神電車**車内は全国的に類を見ない様子  
に一変します。黄色にピンク、選手仕様のカスタム版とバラエティーに富んだユニホ  
ームに身を包んだ虎党たちが、試合展望を語りながら車内でくつろいでいます。慣れ  
てしまうと、何でもない光景なのですが、**騙だまされてはいけません。**

この、**球場に到着する前から車内をユニホーム姿の虎党が占拠する風景**。まあ、家  
からそのままユニホームを来て最寄りの駅まで歩いて、さらに阪神電車に乗り換えて  
甲子園に向かうって感じなのでしょうが、冷静に考えるとおかしくありませんか？

みなさん、考えてみてくださいよ。

例えば東京デイズニールランドに行くときしましょう。

最寄り駅から東京駅で京葉線に乗り換えて、舞浜まで電車移動するとして、家から  
ミッキーの耳のカチューシャつけて、Donaldダックのくちばしつけて車内でくつろ  
げますか？

普通はこんなことしませんよね。

「家に着くまでが遠足や」なんて言ってた学校の先生はいましたが、

「家から電車の中、甲子園から帰り道までが阪神戦や」

って感覚でしょうか。

電車内までがテーマパーク……。

すばらしい文化やなとは思いますが、やっぱり関西の虎党、恐るべしの法則です。

### タイガース名言録

阪神ファンは10番目の野手。——ジム・パチヨレック

(ヒーローインタビューより)



# 人気者はつらいよ ストーカーにご用心

タイガースが好きすぎて……。

かわいさ余って、憎さ百倍……。

**気持ちが悪スカレートすると、人間は何をしてくるかわかりません。**

本当の話だけに怖くなります。

どこかで調べてくるのか、**球場から尾行してくるのか**、とにかく突き止めるんです。

**監督や選手の住所を特定してしまう方々が……。**

僕たち報道記者も自宅を特定し、球場や公の場で他社の記者の前では聞けないネタを取材しに行くときはあります。いわゆる「裏取り取材」ってやつです。



しかし、ファンの方々が自宅まで訪れるとなると、話は変わってきます。選手からすればまったく知らない人なわけです。

阪神のような人気球団となると、なかなか怖い事件も起こります。

誰の家には書けません、

「カミソリ入りの封筒が送られてきたよ」  
などという証言を複数から聞いたことがあります。

ご丁寧に手紙には「監督辞めてまえ」などと書かれたメッセージも添えられていたりするそうです。ここまでくると、有名税だとは到底思えないですよ。そういうのはやめましょう。

あと、不思議なことに、**チームが移動する新幹線や飛行機を特定してしまう方々も**多くいます。

フェンスの向こうにいる憧れの存在を間近にという気持ちはわかるのですが、手の届く距離にいるということがまた、危険性をはらんでいます。

2003年に阪神が優勝争いをするさなか、**新幹線のホームでサインに応じていた赤星選手が、背後からハサミで髪の毛を切られかけた**という事件も発生しました。

知らない人が刃物を持って後ろから忍び寄ってくる。こんな、誰だって恐怖ではないでしょ。ボブ・サップでも怖いに決まってる。まあ、彼には切る髪の毛がないって話ですけどね。



### タイガース名言録

(マイクが) 入ってねーんだよこの野郎!——赤星憲広

(ヒーローインタビューで観客のヤジを受けて)